

「口腔顎顔面領域の疼痛患者の疫学的な傾向に基づいた、個々の要因の関連に関する後ろ向き調査」へのご協力をお願い

— 平成13年4月1日～平成29年3月31日までの期間において、口、顎、顔面領域における痛みや神経障害で、当科外来を受診された患者さまへ —

研究機関名：岡山大学病院

研究責任者：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

機能再生・再建科学専攻 口腔・顎・顔面機能再生制御学講座

歯科麻酔・特別支援歯学分野

教授 宮脇卓也

分担研究者：岡山大学病院・歯科麻酔科・准教授 前田 茂

：岡山大学病院・歯科麻酔科・講師 樋口 仁

：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

機能再生・再建科学専攻 口腔・顎・顔面機能再生制御学講座

歯科麻酔・特別支援歯学分野・助教・若杉 優花

：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

歯学教育・国際交流推進センター・助教・川瀬 明子

：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

機能再生・再建科学専攻 口腔・顎・顔面機能再生制御学講座

歯科麻酔・特別支援歯学分野・大学院生・大西 梨恵子

：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

機能再生・再建科学専攻 口腔・顎・顔面機能再生制御学講座

歯科麻酔・特別支援歯学分野・大学院生・三宅 沙紀

：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

機能再生・再建科学専攻 口腔・顎・顔面機能再生制御学講座

歯科麻酔・特別支援歯学分野・大学院生・西岡 由起子

1. 研究の意義と目的

口、顎、顔面における痛みや神経障害は原因が多彩であり、診断が困難であったり、治療が困難である場合が多く認められます。

これまでの研究で過去 13 年間の当科の外来での口腔顎顔面の治療が難しい痛みや神経障害を来した患者さまについて研究を行い、実態を把握しました。今回の研究により、痛みや神経障害の原因となる因子毎の統計学的な分析を行えるようになり、また診断や治療法にもそれらを生かすことができるようになることを目的としています。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

口、顎、顔面領域で他院または他科で痛みが改善しないために、岡山大学病院歯科麻酔科の外来を受診され、診察を受けた患者さま

2) 研究期間：

平成 26 年 8 月 26 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

3) 研究方法：

平成 13 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までに当院歯科麻酔科を受診され、診察を受けた患者さまで、研究者がカルテから抽出したデータをもとに年齢、性別、症状、発症からの期間、受診までの経緯、心理テストの結果、診断、治療法、投薬内容、経過等のデータを選び、調査させていただきたいと考えております。

4) 調査票等：

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが、あなたの個人情報には削除し匿名化し、個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 年齢、性別、症状、発症からの期間、受診までの経緯、心理テストの結果、診断、治療法、投薬内容、経過等

5) 情報の保護

調査情報は岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 歯科麻酔・特別支援歯学分野内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。

また個人への結果の表示は致しかねます。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせください。

2017年 4月 1日

岡山大学 大学院 医歯薬学総合研究科
歯科麻酔・特別支援歯学分野

電話：086-235-6813

宮脇卓也